



「あの日から、
パパは帰って
こなかった」

ある日 突然

パパが家に帰ってこなくなった。

ママに聞いてみた。

パパはどこに行ったの？



「パパは遠いところで
みんなを守るとても大切な
お仕事をしているのよ」
とママが教えてくれた。



『みんなを守るお仕事』

ってなんだろう？

学校の友達にきいてみた。

「みんなのパパの仕事はなに？

ちゃんと家に帰ってくる？」



「帰ってこないよ」

「うちもー」

「うちもだ〜」

「うちもだよお」

「うちはおにいちゃんがあ〜」

家族の人が帰ってこない友達が
クラスにはたくさんいた。

パパ、お兄さん、親戚のおじさん。
みんな男と言うのも共通だ。

何でだろう？



また、ママに
きいてみた。



「子供は
知らなくて
いいのよ」
と言われた。

ぼくは

大人になった。

そして

ぼくも

いなくなつた。

ぼくは徴兵されて
陸軍の兵隊になった。

兵役の期間は2年間だ。

絶対に生きて帰る。

そう決めている。



ある日、突然、敵がやってきた。

街にはロケット弾が降り注ぎ
敵の戦車隊が境界線を越えて
侵入してきた。

本人の意思とは関係なく
徴兵された兵士の士気は低く
多くの者が逃げ出した。

敵の無慈悲な攻撃に
国土は焦土と化し
多くの国民が犠牲となった。



逃げねば！



ぼくは軍服を脱ぎ捨てて
港へ向けて走った。

そこには避難船が停泊していた。

船内は多くの避難民で溢れていた。

船室、デッキ、廊下はもちろん
トイレの中まで避難民でいっぱいだ。

ぼくはその船で戦場から脱出できた。

ぼくは運がいい。



そ　う　で　も
な　か　つ　た

あ　あ　あ　あ



ぼくが

家に帰ることは

なかった。

— 終 —